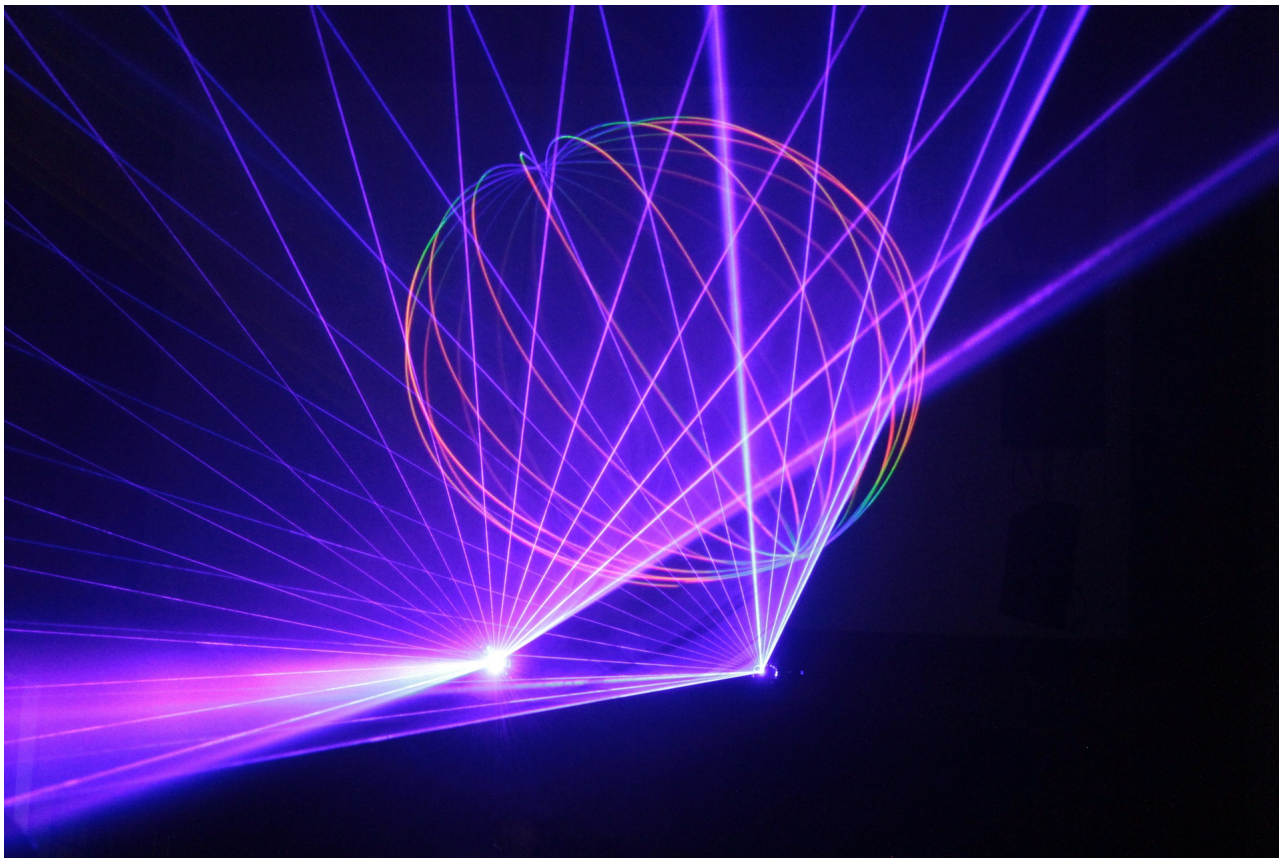

第3の目体験記

脳の機能向上と霊的進化



幾何学模様

最初にヴィジョンが見えたのが体外離脱時だった。

離脱する前兆として・・・

「キーン」

という金属的な音が聞こえてくるパターンと光が出てくるパターンがある。

離脱時は幾何学的なレーザー光線状の光が出てくる。

これは文字通りレーザーみたいで色付きで手で触れそうなくらいに明白な状態。

ちょうどこのPDFの表紙の画像のような鋭角でカラフルなレーザー光線状の光が多い。
図形も結構複雑。

円状ではなく直線によって構成されている。

また、その光によってヴィジョンが見えたりする事があった。

当時は1970年代後半。

現在のように情報が豊かではなかったので何が起きているかわからなかった。

しかし、性格がお気楽なところがあるので・・・

「なんだかわかんけど、まあいいか」

で済ませていた。

このように偶発的に光を身始めたのが最初だった。

意識的に見え始めたのが瞑想を始めてから。

光を使う瞑想体系

一番最初は本を読んで独学でやっていた。

仙道系の本を読んで気を練っている時に見え始めた。

この時は先にお話したような幾何学模様のレーザー状の光のような明確な感じは出せなかった。

瞑想中に見えるちゃあ見えるが、もっとボンヤリした感じ。

色は・・・

- ・白

- ・黄色

などが多かったように記憶している。

ちなみに、瞑想中に見える光については修行体系によって扱い方が違ってくる。

大きく2つに分けると肯定派と否定派に分かれる。

肯定派としては・・・

- ・ヨガ

- ・仙道

- ・カバラなどの魔術

- ・ ヴィパッサナー瞑想の一部

などがあげられる。

これらはこの光を使って瞑想を進めていくという体系になっている。

ざっくりと一例をあげると・・・

ヨガ＝光を使ってチャクラを開発したり

仙道＝光を使って丹を作ったり

魔術＝生命の木の瞑想やタットワなどで異界への扉にしたり

ヴィパッサナー瞑想＝輪廻やカルマをみていたり

というような作業というかワークをしていくわけだ。

魔境

一方、否定派としては・・・

- ・ 座禅

- ・ ヴィパッサナー瞑想の一部（マハシメソッドなど）

などがある。

なぜ否定しているかという、色々な理由があるが一つだけあげると・・・

「ヴィジョンに注目すると妄想世界に囚われてしまうから」

という理由があげられる。

妄想世界というのは、よく瞑想体験や神秘体験などでもあるが、主にドラックを使ったものに多いのだが、様々な体験やヴィジョンを観るケースがある。

ドラックを使わない場合でも、もともとヴィジョンを見たりする傾向や思い込みが強い場合はヴィジョンを見てその内容が全て真実だと思い込んでしまうケースがある。

夜寝て見る夢の多くが自分の想念（願望や浄化など）であるのと同じように、瞑想中にみるヴィジョンも多くの場合は自分の想念であるケースがほとんどである。

また、他とコンタクト（神や天使と思われる存在）したと思っても、これも妄想だったりよろしくない存在だったりするケースがある。

また、仮に良いといわれている霊的な存在でも瞑想修行によっては脇道な場合があるので、ヴィジョンを否定する派が存在するという話になってくる。

まあ、何事もメリットとデメリットがあるように、伝統的な体系においてもこの辺は取り組み方が分かれてくるという話にはなる。

ただ、どちらにしてもある程度、瞑想が進んでくると大なり小なり光が出てくる傾向はある。

どちらを選択するか？

その出てきた光を使うか使わないかの話なわけだ。

「どっちがいいんですか？」

という質問もあるかもしれないが、この辺は・・・

- ・カルマ
- ・興味性

の2つで判断すればいい。

カルマ

カルマというのはシンプルに言えば向き不向きというか、現代風に言えば遺伝。

運動で例えると・・・

- ・短距離型
- ・長距離型

というような分類がある。

短距離型の人には100メートルなどの短距離が得意。

長距離型はマラソンなどが得意。

どちらが得意かは遺伝によるものが大きい。

速筋や遅筋の割合やミトコンドリアDNAなどが影響する。

どのくらいの割合が遺伝なのかは諸説あるが、かなりの割合だというのは想像出来る。

このように運動にも向き不向きがあるように、瞑想においてもある程度向き不向きがあ

る。

これは遺伝が両親のDNAから発生するように、カルマの場合は前世からの影響と言える。

例えばあなたが過去性でマントラ・ヨガをやり込んでいた場合、今回の人生でもなんとなくマントラが気になる。

マントラヨガをやってみたら初回からある程度深い瞑想に入った。

みたいな場合はカルマ的に向いていたみたいな話になってくる。

また、カルマ的な適正はあっても初回の一発目で効果というか適性を感じない場合もある。

私の場合で言えば、ヴィパッサナー瞑想がそうだった。

リトリートに入るまでは・・・

「なんかイマイチだな、マントラの方が瞑想に入るわ」

と思っていた。

また、リトリートもただ入れればいいというわけではなく、それなりの準備と決意が無いと何も起こらなかつたりする。

だから、ちょっとやったくらいで・・・

「なんだ、才能ないじゃないか」

とあきらめるのも、ちょっと違うという話にはなってくる。

興味

二番目の興味性については文字通り・・・

「興味がある事は才能がある場合が多い」

という話。

もちろん、興味があっても全然適性が無いケースもあるが、傾向としては才能があるケースも多い。

何が言いたいかというと、瞑想して光が見えるのも向き不向きがある程度あるという話。

見えやすい人もいれば見えにくい人もいる。

ただし、この辺も考え方次第というか、大雑把な表現になってしまうが私たちは誰しもこの肉体以上の存在なわけだ。

スピリチュアル的に言えば「光の存在」だと言える。

この光というのは抽象的な例えでなく、文字通り光っている。

だから、瞑想して見える見えないは枝葉というか表層的な話でしかない。

なぜなら、存在としての本質が光だからだ。

あえて言えば、瞑想中に光をみたり自分をそう感じた方が・・・

「そうだったんだ・・・」

と自覚を持っていいよという程度の話ではある。

シンプルに言ってしまうと、瞑想とは「進化」のスピードをアップしてしまうとも言える。

なぜなら、実際にこの世の生を終えて違う次元で目覚めた時に、味わったり認識する段階を「今」やっぴてしまおうという試みだからだ。

その一つとして光が出てきたり、それを使ってワークするという体系とも言える。

アメーバー状の光

さて、体験談の続きだが最初の光の体験は体外離脱時の幾何学模様だったという話だった。

次に光が見え始めたのが瞑想中。

この頃は中学の時だった。

白色や黄色のボンヤリした光が出てきた。

この段階では・・・

「見えているちやあ、見えている」

程度。

なぜなら、目を閉じていて見える光が必ずしも霊的な光では無いからだ。

生理的には・・・

- ・まぶたを通り抜けた光
- ・眼閃（がんせん）
- ・補色や残像

といわれるものがあり、これらは霊的なものではなく単純に体の生理的作用によるもの。

一つだけ挙げると眼閃（がんせん）とは網膜の作用として起こる。

通常、網膜は目に入ってきた光をキャッチするセンサーだが、実は光が入ってこない時でも働いている。

つまり目を閉じている時でも脳に光の信号を送っているわけだ。

だから、試しに今、目を閉じてみて欲しい。

真っ暗にはならず、なんらかの光が見えているはず。

これは真っ暗な状態でもなんらかの光は見える。

しかしである。

「なんだ、ただの網膜と脳の錯覚か」

では実は終わらない。

なんとなくボンヤリとした光が見えている状態から、明確に見え始める段階がある。

どのように観えるのか？

この辺は多少の個人差があって一概には言えないが多くの場合はアメーバー状の光が出現する。

アメーバー状の光というのは動いているわけだ。

空間にボツとした感じで光が出現してそれがアメーバー状に広がったり閉じたりするパターンが一般的。

色や大きさや形は個人差や瞑想の深さによって変わってくる。

普通は瞑想が深くなればなるほど、色や形が明確になり形も大きくなる。

私の場合は拳大のアメーバー状の光が見え始めた。

光が映像に

確か高校生ぐらだったと思う。

明らかに手で触れそうな光が出てきた。

色々な神秘系の文献によると・・・

「光に映像が浮かぶ」

という記載があったので、光に・・・

「風景が観たい」

とリクエストしてみた。

最初は上手くいかなかったが程なくして映像が浮かぶようになった。

リクエストして1分くらいのタイムラグがあり、光に風景の映像が浮かぶ。

ちなみに、この時の映像は想像するイメージと違う。

もっとテレビの映像を観ているような明確さがある。

実はこの想像するイメージによって透視したり答えを得たりするメソッドがある。

印象（想像のヴィジョン）

というか、実は透視と言えばこっちの想像するイメージを使うのが一般的ではある。

- RV（リモートビューイング）
- 直感力
- ヘミシック

などは全部とはいわないが、ほぼほぼこの想像するイメージを使っている。

サイキックなども大部分はそうだ。

想像するイメージとは印象とも言える。

例えば・・・

「うどん」

と聞けば、なんとなくうどんのイメージが浮かぶ。

別にカラー映像でなくてもいいし、薄っすらボンヤリした印象が浮かぶはず。

大体の透視のテクニックやサイキック（霊能者）はこれらの印象による映像機能を使う。

光を使った方法はこれらの想像（印象）を使ったイメージとは違う。

あたかも、実際にそこに存在したりPCのカラー液晶を観ているような状態で観える。

「印象による方法と光の映像による方法どちらがいいんですか？」

という質問もあると思う。

これはその映像をどう使うかで話は変わってくる。

2つだけ例をあげてみよう。

RV的、つまり遠隔でものを知りたい場合においては、実はこの2つはほとんど違いが無い。

明確な光の映像として見えなくても、うっすらボンヤリした白黒のイメージでも正確さという意味ではそれほど違いは無い。

例えば、白黒でボンヤリとしか見えなくとも高い正解率をたどき出す人もいる。

一方で光の鮮明なヴィジョンを観ても全然当たらずに本人的な妄想世界を観ているケースもある。

光で瞑想が深まる

次に瞑想を深めたい場合。

瞑想を深めたい場合は光の明確なヴィジョンが現れた方が断然いい。

なぜなら、その光を使って瞑想を進めることが出来るからだ。

この辺は卵が先か鶏が先かではないが・・・

「瞑想が深くなったから光が明確になったのか、光が明確になったから瞑想が深くなったのか」

という部分もあるが、とにかく明確な光が出てきてそれを採用するか否かは別にして瞑想が深まってくると何かしらの光が出てくる傾向ではある。

ちなみに、今回はこの光を観る瞑想もやっていくが、何か映像的なヴィジョンが見えなくとも、明確な光が出てきた時点で・・・

- ・脳の働きが増強する
 - ・集中力が格段にアップする
 - ・直感力が冴える
 - ・瞑想が深まる
-

・現在の意識と肉体を超えた「本質的な意識」を自覚し始める

という作用が起き始める。

情報処理の高速化

私の話で恐縮だがこの作用を自覚したのが社会人になってからだった。

最初に言うておくが私自身は別に頭が良いわけでもなく、自分でいうのはなんだが普通の部類だった。

いや、むしろ劣等生とも言える。

教育のプログラムに疑問を憶えていたので、いわゆる勉強は一切しなかった。

高校も通学が一番近いところを選んだので、ヤンキーが多い偏差値が低いところだったし、どちらかというのアホな部類と言っていいかもしれない。

ところがである。

20代の頃はバブルの恩恵もあってか、ある大手自動車メーカーの開発部門に所属していた。

周りは頭の良いといわれている人ばかり。

その時、全国から社員が集まって研修が行われた。

確か60～70人くらいはいたと思う。

その研修の中に「創造力テスト」というのが実施された。

自画自賛で申し訳ないが私が1位だった。

しかも、結果発表を聞いて驚いたが2位と2倍の点数の開きがあった。

なぜこのような事が起こるかという、10代の始めくらいから瞑想していた事くらいしか思いあたらない。

ちなみに私の場合、直感はどのような感じでやってくるのか？

ダウンロード

色々なパターンがあるが、一つだけ紹介するとイメージでやってくる。

こうやって書いている文章もそうだし、講座では図形を使って解説したりするケースが多いが、あれも図形のイメージがやってきているからだ。

これらはあたかも、違う次元には既に存在していて、それをダウンロードしている感覚とも言える。

セミナーなども、どんな話をしようかぐらいは一応考えるが、あとはその場で自動で言葉が出てくる。

こういった脳の機能が增強するというのは、私の今話を聞いて信じる信じないよりも、あなた自身で体験出来る事である。

事実、deepの講座を受けた人の中で光が見え始めたり、直感が鋭くなって答えが次から次へ沸き起こる体験をした人からメールで報告をもらう。

また、こう言った脳の機能が增強したり直感が冴えるのと同時に・・・

- ・瞑想が深まる
- ・現在の意識と肉体を超えた「本質的な意識」を自覚し始める

ということも起こり始める。

その兆候として「光」や「ヴィジョン」が何らかの形で出現するという話になってくる。

本質的な意識を自覚

このように、RV（透視的）な事も起こるケースもあるが・・・

現在の意識と肉体を超えた「本質的な意識」を自覚し始める

という部分がより重要だと感じている。

なぜなら、一般的にサイキック（霊能力）といわれているものを思い浮かべて欲しい。

- ・テレパシー
- ・遠隔透視
- ・念力（PK）
- ・空中飛翔
- ・異世界への旅

これらは基本的に私たちが死後に霊体になった時に自然に獲得出来る能力である。

厳密に言えば死後の霊体の状態によっても変わってくる。

極端な話、何か強い情念や囚われている想念があると、それを現実化してしまっていていわゆる低級霊界的なところへ留まってしまう場合はある。

しかし、通常の状態で臨終を迎えた場合はこの肉体の限定性から解放される。

それによって個人差はあるが、概ね上記のような霊能力というのは自然に獲得出来る。

獲得出来るというか、元に戻るというか、とにかくそうなる。

これは体外離脱した人はわかると思う。

どちらかという、この現実世界よりは快適。

何が言いたいかという、サイキック的な能力は遅かれ早かれ向こうの世界で復活するわけだ。

だから、このような霊能力の開発は実は重要度としては高く無い。

霊能力だけで言えば、動物の方が高いくらいだ。

この物質世界に生まれたのはそれなりの理由がある。

そっちの方を優先しましょうという話になってくる。

ただし、そうは言っても・・・

- ・ 光を見たり
- ・ 瞑想が深まったり
- ・ 肉体の制限を超えた現象が起こったり
- ・ 本質的な意識の一端を自覚出来たり

すると、現在の意識と肉体を超えた「本質的な意識」を自覚し始める。

それによって霊的な進化がスピードアップする。

霊的な進化

この霊的な進化がスピードアップというのはヨガなどの伝統的な修行体系でも触れられていたり諸説ある。

少しだけ解説すると、瞑想と死の体験を比べてみて欲しい。

瞑想も深まっていくと肉体の生理機能的には・・・

-
- ・呼吸数が低下していく
 - ・脈拍なども低下していく

など、ベクトルとしては体の機能というものは低下していく。

つまり死んだようになっていくわけだ。

また、それと共に意識の割合がアップしていく。

考えてみて欲しい。

なぜ、伝統的な瞑想や修行の多くは・・・

- ・菜食や断食など極端な食事制限をしたり
- ・断眠をしたり
- ・体を座って長時間固定したり
- ・千日回峰行のように体に負荷をかけたり
- ・真っ暗な中で長期間瞑想したり

するのだろうか？

シンプルにいうと肉体の力を削ると比較相対的に霊的な側面が浮上してくるからだ。

例えば上記のような修行でなくとも、極端に疲れていたり、病気や熱が出て寝込んだ時に神秘体験的なものを経験した事はないだろうか？

それは肉体の力がダウンした為に霊的な面が浮上したケースである。

上記のような修行は意識的にこの状態を作り出す。

更に言えば通常の間が死んだ後の状況もクリアにしていく。

臨死体験の事例をみればわかるが、死後のプロセスとして・・・

第一段階

- ・体から離脱する
 - ・肉体の自分や集まっている親族を霊的なボディーから目撃する
 - ・「あれ？死んでいるのに生きています！」と思う
-

第二段階A 普通の場合

- ・ 何らかのお迎えが来る（高次元の存在、祖先）
- ・ 三途の川の的なものに自動的に移行する
- ・ 川は出てこないが霊界（幽界）のセンターのようなところへ行く
- ・ そこで人生の振り返りを行う
- ・ 大いなる存在に会う（天使、神と思われる意識、その他）
- ・ 意識の永遠性を自覚する

第二段階B イマイチな場合

- ・ 死んだ後の自分が認識出来ない（死後は無いと思っているので）
- ・ 自分が作りあげた想念世界から抜けられない（低級霊界的なもの）

この第二段階の次に第三段階があるのだが、とりあえずシンプルに分けると上記のような感じになる。

きちんとしたスピリチュアル的なアプローチをしていれば、第二段階Bのイマイチなケースには落ちない。

また生きているうちに・・・

- ・ 人生の振り返り
- ・ 大いなる存在に会う
- ・ 意識の永遠性を自覚する

というような段階もクリアしていく。

「大いなる存在に会うんですか？」

という質問もあると思う。

これはある程度瞑想が深くなったり、恩寵により僥倖する事はある。

ただ、そうでなくともある程度人生経験を積んだりピュアなバクティ的傾向があれば自然と神の存在を感じるようにはなっていく。

今回行うような光のヴィジョンを観るようなワークは面白半分の興味本位なだけで行うとただの当て物的な神秘行になってしまう。

しかし、このように自分の本来の意識という視点から行っていくと、霊的な進化を早める聖なるワークに昇華していく事が可能である。

～ 以下 実際のワークに続く ～
